

2023年度2年次3月(2022年4月入学・形成期)

「学びと成長の歩みの記録」アンケート(抜粋版)

「学びと成長の歩みの記録」の概要

立教大学では、2022年度に入学した学生を対象に「学びと成長の歩みの記録」(学修状況調査)のアンケート調査を実施しました。

「学びと成長の歩みの記録」のコンセプトは「学生自らが、[RIKKYO Learning Style](#)の各学修期(『導入期』『形成期』『完成期』)に合わせて自身の学修成果をふりかえり、成長の変化を自覚できること、そして、大学としてその結果を分析・検証し教育の改善に活用すること」です。

今回は2022年度学部1年次入学者(2022年4月入学)を対象に、形成期終了時点の2年次3月に実施しました。今後、在学中に継続的なアンケート調査を実施し、「導入期」「形成期」「完成期」を通じた学びと成長の過程を追っていきます。

この資料では集計・分析結果の一部を抜粋してご紹介します。アンケート調査にご回答いただいた学生のみなさん、ご協力ありがとうございました。立教大学では、今回の結果を踏まえてこれからの教育の改善に活かしていきます。

実施時期：2024年3月5日～2024年5月31日

調査対象：2023年度学部2年次生(2022年4月入学)

調査方法：全数調査(オンライン調査)

調査目的：RIKKYO Learning Styleの「形成期」終了時点での学修成果等の把握を目的として実施することで、立教大学での学びや過ごし方について学生自身がふりかえり、大学としてその結果を教育の改善のために活用すること。

回答数と回答率

対象学生数：4,535名 回答数：1,333名 回答率：29.4%

学部	対象学生数	回答者数	回答率
文学部	875	324	37.0%
経済学部	665	158	23.8%
理学部	269	64	23.8%
社会学部	527	165	31.3%
法学部	573	164	28.6%
経営学部	383	81	21.1%
異文化コミュニケーション学部	155	61	39.4%
GLAP*	14	6	42.9%
観光学部	357	98	27.5%
コミュニティ福祉学部	403	121	30.0%
現代心理学部	314	91	29.0%
合計	4,535	1,333	29.4%

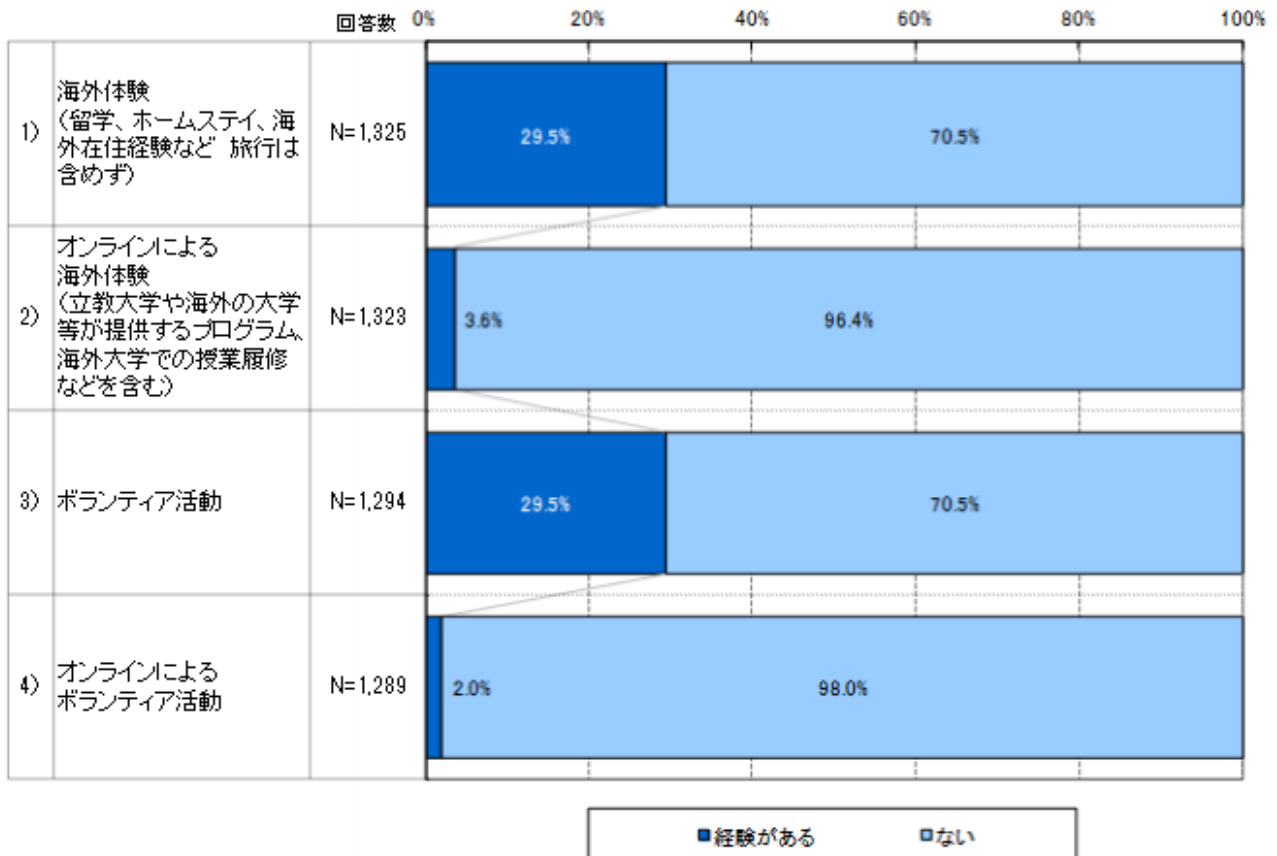
*注) GLAP: グローバル・リベラルアーツ・プログラム

調査結果（抜粋）

本調査で得られた調査・分析結果の概要を抜粋してご紹介します。

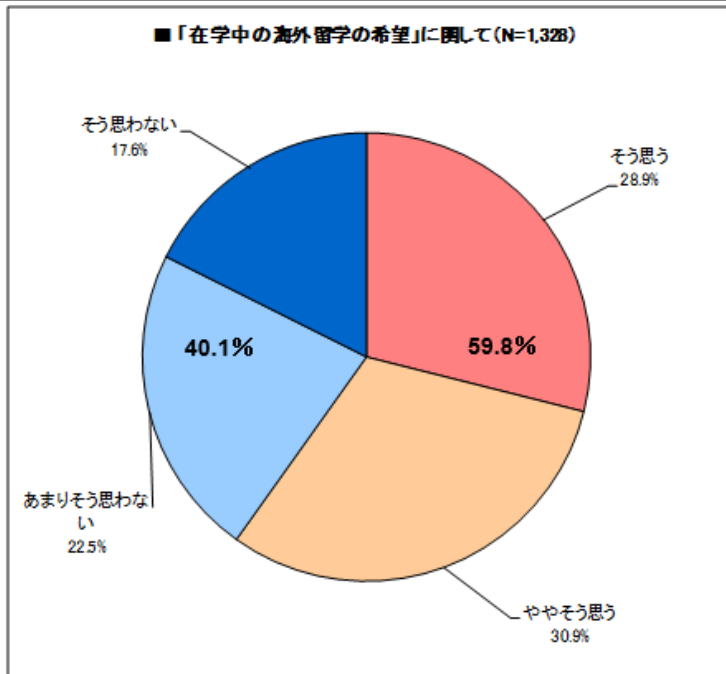
■Q1.1 年次春学期終了から2年次秋学期終了までの経験

- 海外体験を経験した学生は29.5%、オンラインによる海外体験を経験した学生は3.6%、ボランティア活動を経験した学生は29.5%、オンラインによるボランティア活動を経験した学生は2.0%でした。



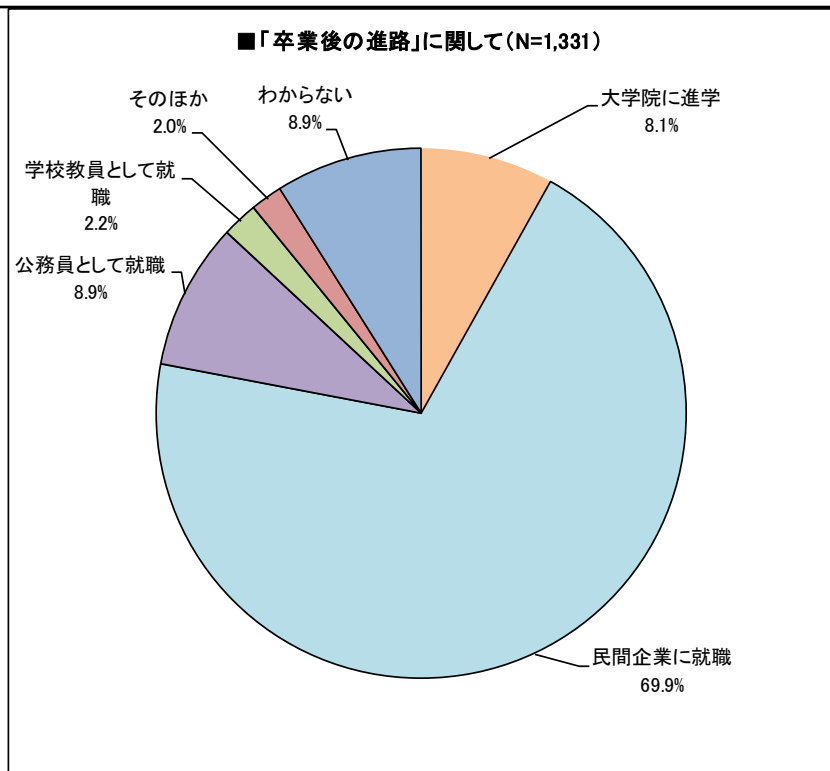
■Q2. 在学中の留学意向

- 在学中の留学に対する意向を尋ねたところ、「そう思う」が 28.9%、「ややそう思う」が 30.9%、「あまりそう思わない」が 22.5%、「そう思わない」が 17.6%で、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、約 6 割の学生が留学したいとされていることがわかりました。



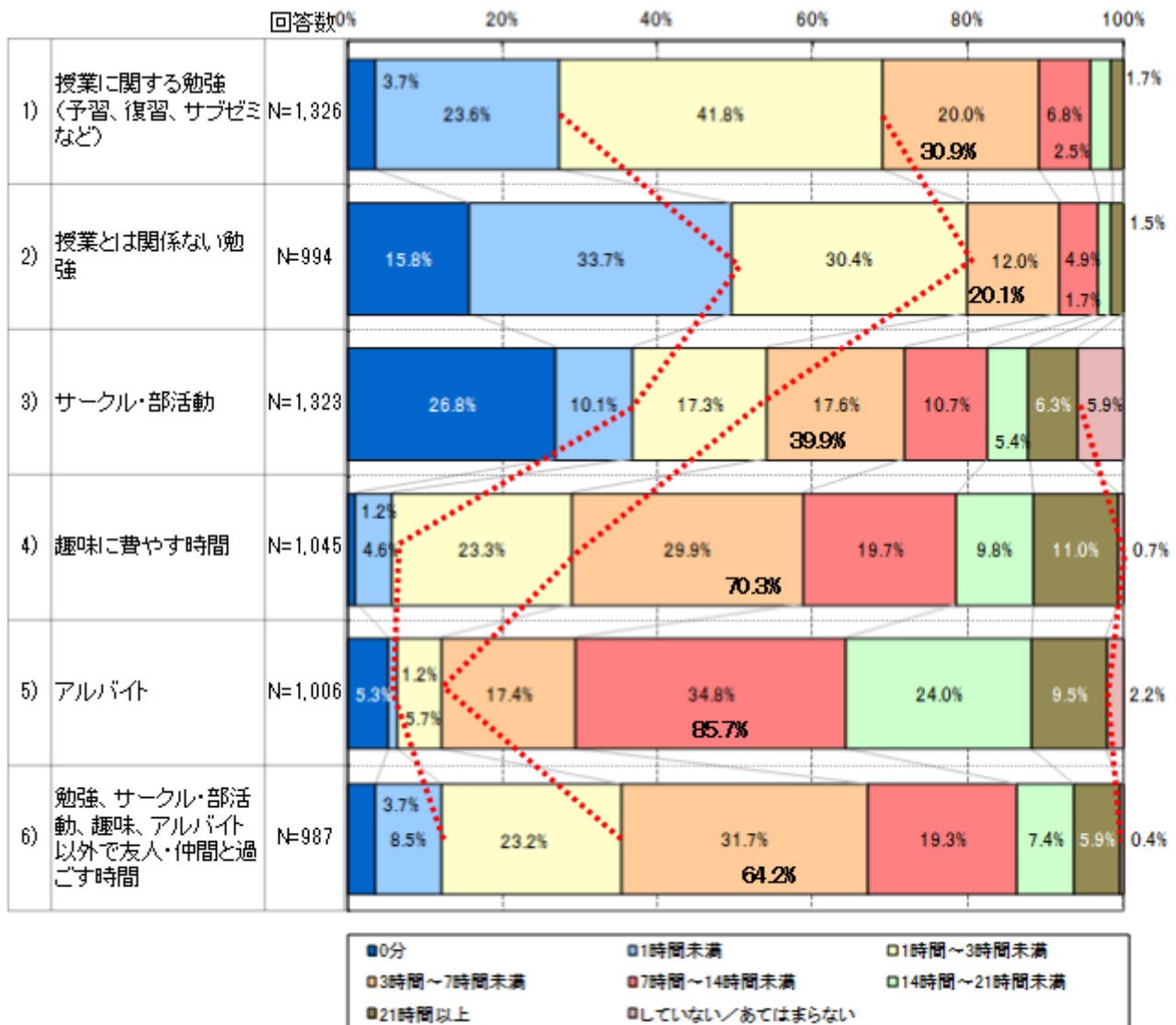
■Q3. 卒業後の進路意向

- 卒業後の進路の意向について尋ねたところ、「民間企業に就職」が最も多く 69.9%、「公務員として就職」が 8.9%、「わからない」が 8.9%と続いていました。



■Q4. 学生生活（1週間あたりに費やした時間）

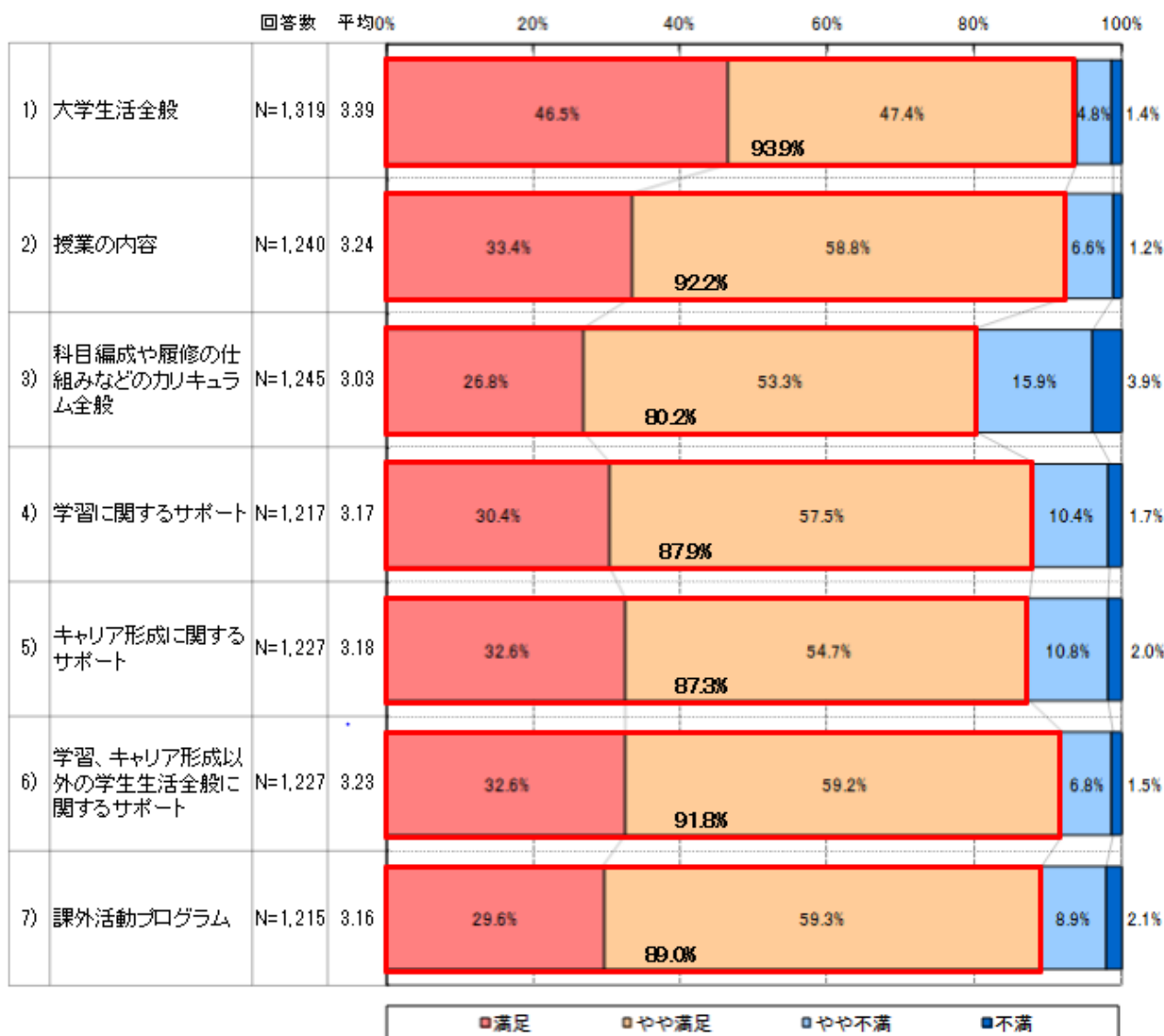
- 1年次秋学期および2年次春学期・秋学期の授業期間にそれぞれの活動に費やした時間（1週間あたりの平均）を尋ねたところ、授業に関する勉強では、「1時間～3時間未満」が最も多く41.8%、次いで「1時間未満」が23.6%となっていました。授業以外での勉強では、「1時間未満」が最も多く33.7%、次いで「1時間～3時間未満」が30.4%となっていました。
- サークル・部活動では、「0分」が最も多く26.8%、趣味に費やす時間では、「3時間～7時間未満」が最も多く29.9%、アルバイトでは、「7時間～14時間未満」が最も多く34.8%、これら以外の友人・仲間と過ごす時間では、「3時間～7時間未満」が最も多く31.7%となっていました。



※1)授業に関する勉強、2)授業とは関係ない勉強の2つの質問には「していない／あてはまらない」という選択肢は用意していない。

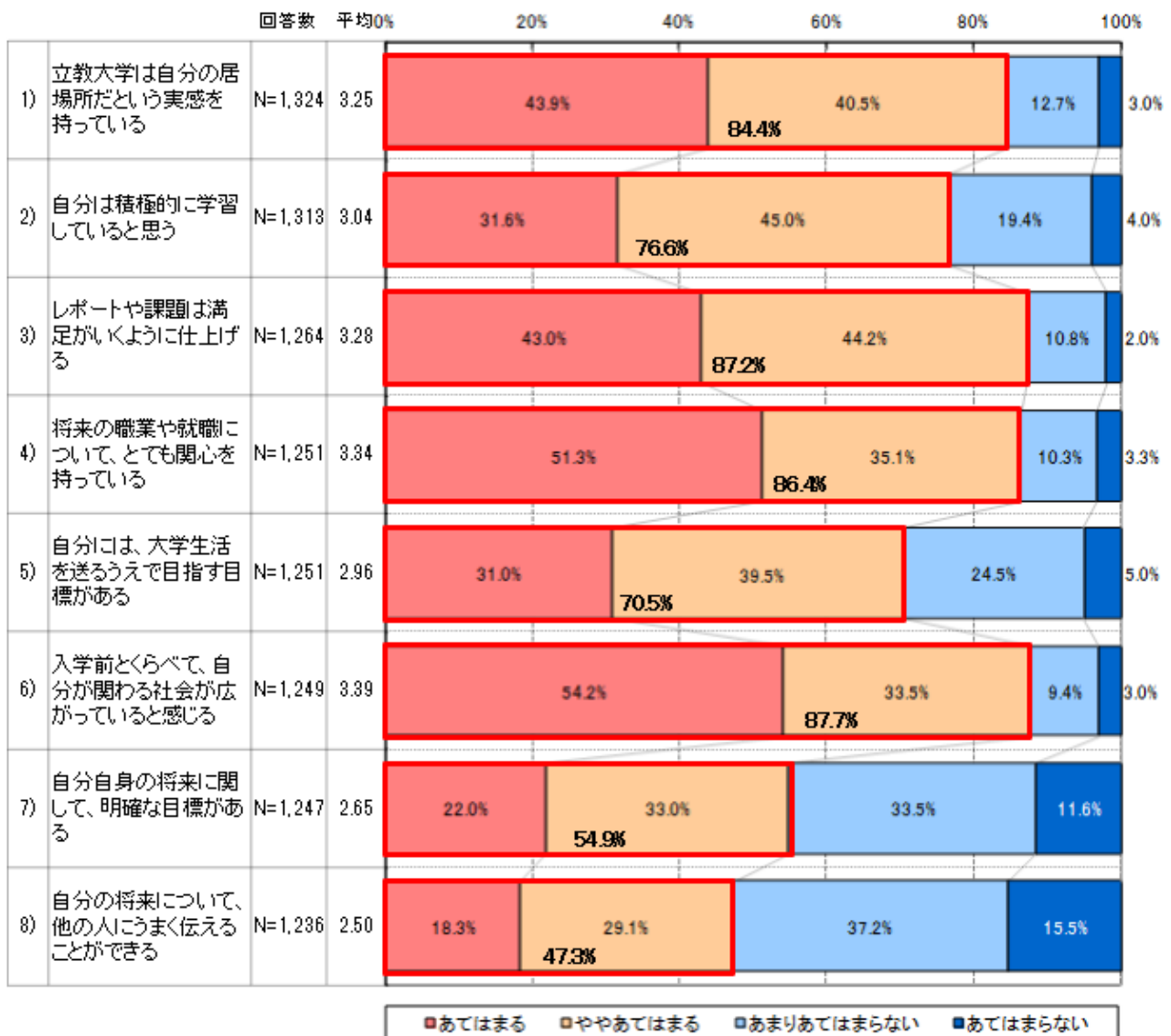
■Q5. 満足度

- 立教大学の各項目への満足度を尋ねたところ、「満足」「やや満足」を合わせると、6つの項目で8割以上の学生が立教大学での授業やサポートについて満足していると回答していました。肯定的な回答が最も多かったのは「1) 大学生活全般」で93.9%でした。一方、肯定的な回答が最も少なかったのは「3) 科目編成や履修の仕組みなどのカリキュラム全般」で80.2%でした。



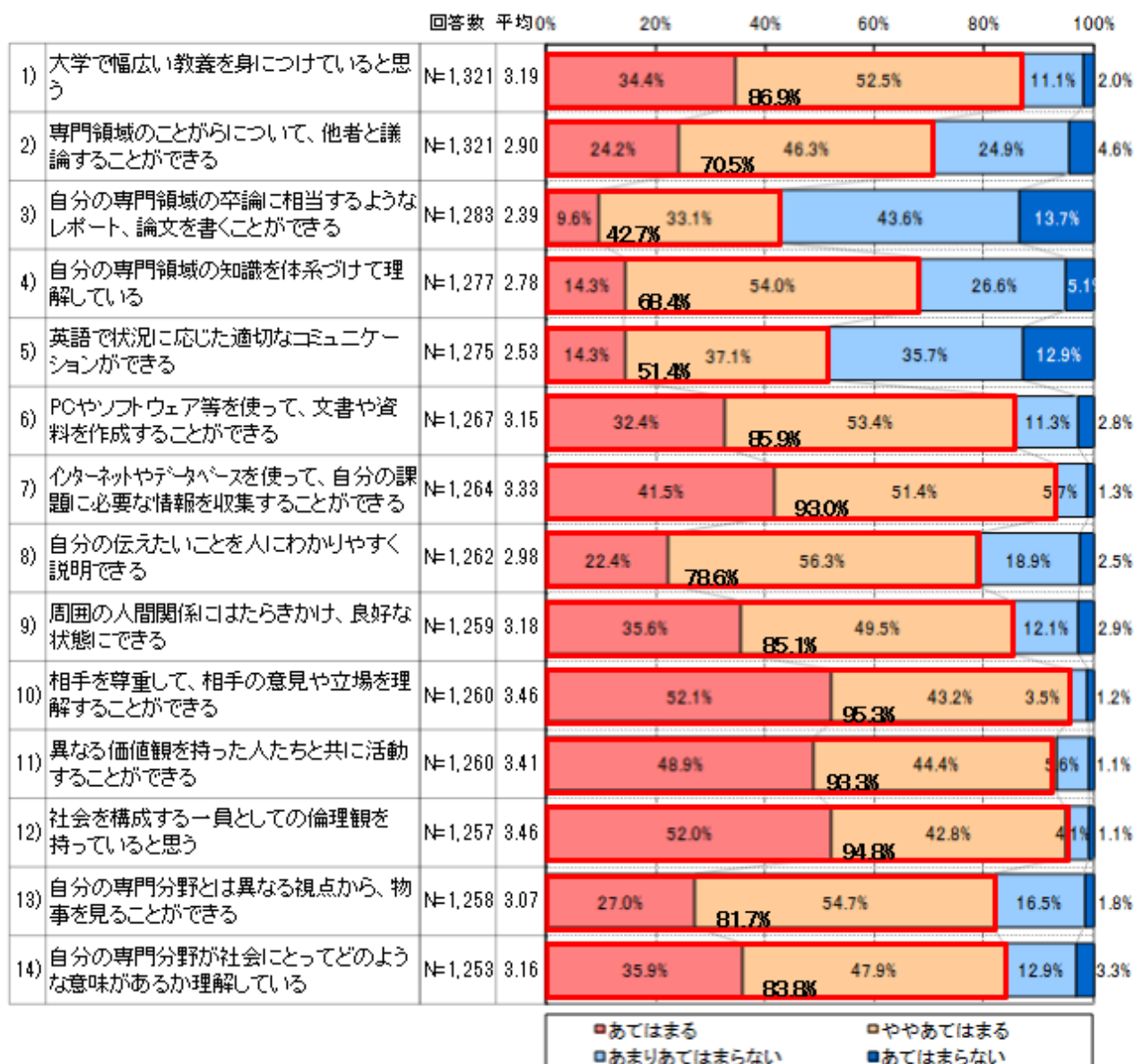
■Q6. 大学生活・学修について

- 大学生活や学修についての認識について尋ねたところ、Q6.1～Q6.6の現在の大学生活や学習、進路に関する各質問項目では、7割以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。
- 一方、Q6.7「自分自身の将来に関して、明確な目標がある」、Q6.8「自分の将来について、他の人にうまく伝えることができる」では「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が半数程度となっていました。



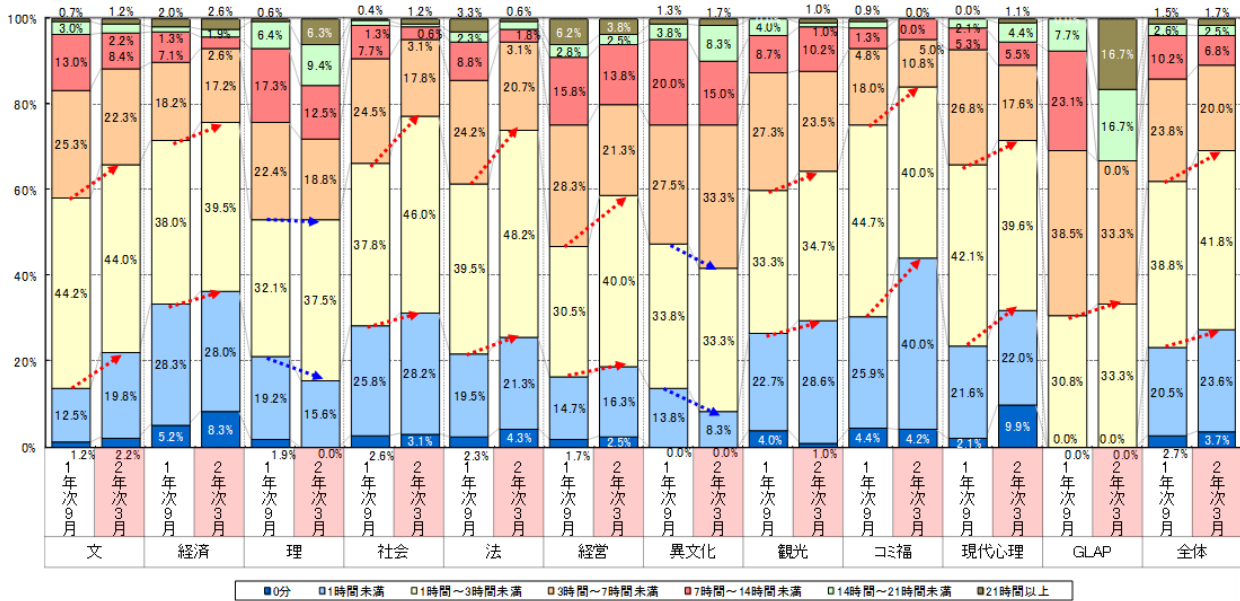
■Q7. 「立教大学 学士課程教育の目的」の学修成果

- 立教大学の学士課程教育の目的(ディプロマ・ポリシー)と関連する各項目について尋ねたところ、Q7.1、Q7.2、Q7.4～Q7.14では、半数以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。
- 一方、Q7.3の専門的な学問の執筆力を尋ねる項目では半数以上の学生が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答していました。



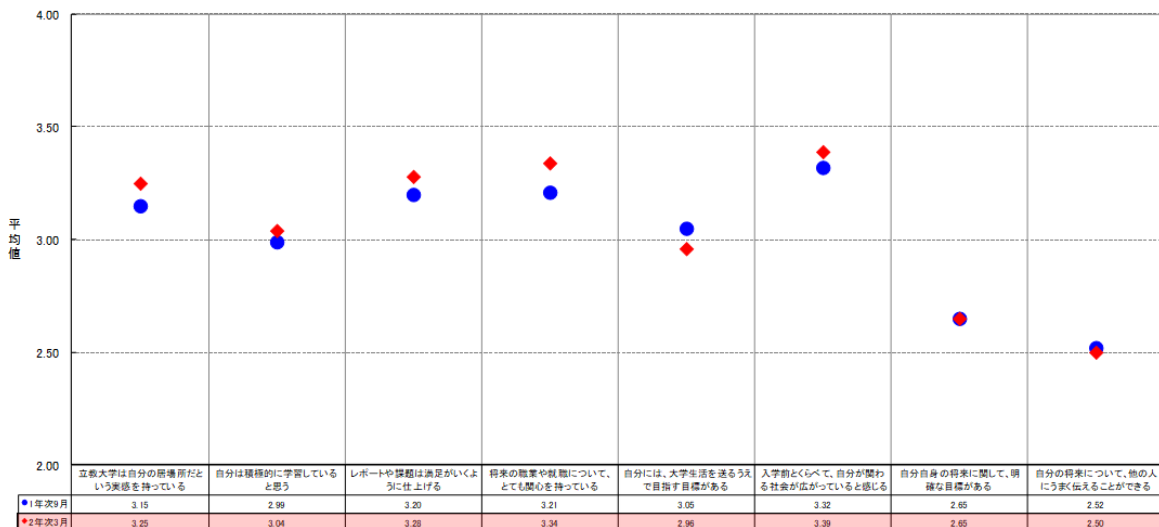
■ 〈授業に関する勉強〉に費やした時間（1年次9月調査時点との比較）

- 時間が短い層の目安として「1時間未満」までの合計で比較すると、文学部、経済学部、社会学部、法学部、経営学部、観光学部、コミュニティ福祉学部、現代心理学部で「1年次9月」より増加しており、〈授業に関する勉強〉の時間は短くなっていました。
- 時間が長い層の目安として「3時間以上」を合計したところ、理学部と異文化コミュニケーション学部は増加していました。



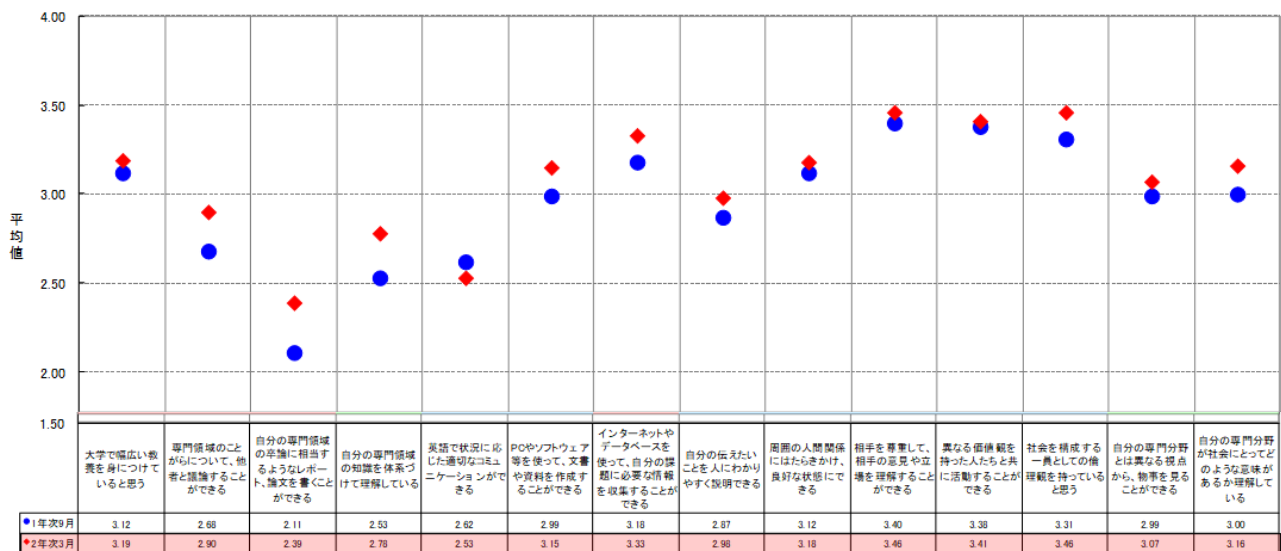
■ 「自分自身の状況」（1年次9月調査時点との比較）

- 「2年次3月」の方がスコアの高い項目を点差が大きい順に挙げると、「将来の職業や就職について、とても関心を持っている」「立教大学は自分の居場所だという実感を持っている」「レポートや課題は満足がいくように仕上げる」となっていました。
- 「2年次3月」の方がスコアの低い項目は、点差が大きい順に挙げると、「自分には、大学生活を送るうえで目指す目標がある」「自分の将来について、他の人にうまく伝えることができる」となっていました。



■「身につけている能力」(1年次9月調査時点との比較)

- 「2年次3月」の方がスコアの高い項目を点差が大きい順に挙げると、「自分の専門領域の卒論に相当するようなレポート、論文を書くことができる」「自分の専門領域の知識を体系づけて理解している」「専門領域のことがらについて、他者と議論することができる」となっていました。
- 「2年次3月」の方がスコアの低い項目は、「英語で状況に応じた適切なコミュニケーションができる」のみでした。



2024年12月
立教大学 大学教育開発・支援センター 教学 IR 部会